広がるママの会 安保関連法案反対

安保関連法案に反対するとりくみを紹介する「広がるママの会」。今回は北海道・十勝と岐阜、東京の稲城・多摩です。

［続　報］

風船やうちわをもちパレードをするママの会とかちの人たち＝5日、北海道帯広市内（ママの会とかち提供）

協力申し出が何人も

北海道　とかちパレード

「札幌のパレードには行けないけど、十勝でやろう」と帯広市の会社員、山本玲子さん（34）や芽室町の主婦、木村康子さん（42）ら5人が8月に「安保関連法案に反対するママの会とかち」を結成しました。

5日に帯広市の中心街を歩いたピースパレードには200人が参加。風船やうちわをもち、シャボン玉を吹いて「子どもの命　ママパパ守る」「武器をもたずに手をつなごう」「いいね　いいね　それいいね」とコールすると、バスの中から手を振る人もいました。

全員、デモを主催するのは初めてです。小学校と幼稚園に通う2人の子どもをもつ山本さんがビラを作り、ママ友10人に手渡すと、同僚から同じビラを受け取り、カバンに入れていた人もいました。

「作ったビラがいろんな人の手に渡り、自分のところに返ってきたことがうれしかった」と山本さん。「普段は、社会の裏方のように感じる母親があげはじめた声が、国会に届いてほしい」と話します。

3人の子どもをもつ木村さんは、ビラをフェイスブックに載せて拡散を呼びかけました。「協力したい」「何かしたいと思っていた」という人が何人も現れました。

「憲法9条を中学で学んだとき、日本はすごいと感動しました」と語る木村さん。「憲法が根本から覆される法案はおかしいと声をあげたら、同じ思いの人がたくさんいました。国民の意見が通らない政治を一人ひとりが立ち上がることで変えていきたい」

「もう黙っとられん」

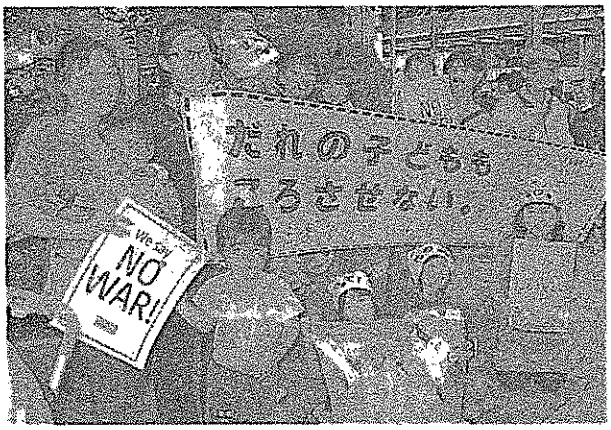
岐阜　県民集会の場で結成

「安保関連法案に反対するママパパの会ぎふ」は、8月23日に岐阜市内でおこなわれた安倍政治を許さない県民集会に参加したママ・パパが、その場で結成した会です。9月11日夕方には市内の繁華街で岐阜県労働組合総連合青年部とともに戦争法案に反対するスタンディング・宣伝を行いました。

呼びかけ人の中尾美絵さん（37）は「8歳の娘、3歳の息子がいます。原発事故でこんな時代に子どもを産んで大丈夫だろうかと不安になりました。そこへ子どもたちが戦争に巻き込まれる、この法案。これ以上負の遺産をつくれない、もう黙っとられん、という気持ちです」。

介護職の夫の忍さん（35）は「夜勤もあるので、ゆっくりしたい気持ちもあるけど、いま行動しないと止めることはできない」と語ります。

もう一人の呼びかけ人、関由美さん（36）は3人の子の母親です。「安保関連法案も戦争賛美の教科書も、この子たちがターゲットになっているんです。戦争への思想がつくられる前に、今やめさせないと。そうなってからでは遅いと思うから声をあげました」



スタンディング・宣伝をするママパパの会の人たち＝11日、岐阜市の名鉄岐阜駅前

会の活動に賛同した小児科医の日野明日香さん（34）には1歳4カ月の息子がいます。「平和貢献なら非軍事でいくらでもできます。子どもはまだ発言できないから親として守ってあげたい」

西美濃地域でも

この日、同県大垣市では「西美濃パパママ安保法案がこわくてたまらない会」のスタンディングが行われました。会は保育園の父母が中心になって結成したものです。

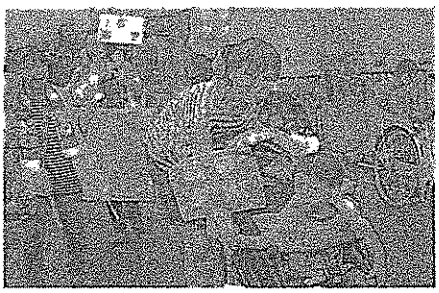
呼びかけ人の一人、川瀬雅子さん（38）は「8月30日、大垣市でのデモに初めて参加しました。『平和のために』という理由で誰かが大事な命を落とすことがあってはならないと思います。この法案の怖さを周りの人に広げて阻止したい」と話します。

「ともに行動」と発信

東京　いなぎ・たま　響く唱和

東京の多摩市や稲城市の母親らでつくる「戦争法反対ママ・パパ・みんなの会@いなぎ・たま」が呼びかけたパレードが6日、稲城市内で行われました。子どもを連れたママ、パパ、保育士、祖父母ら80人が「戦争させない」「子どもを守る」「おとなも守る」と唱和し、通行人にアピールしました。

小学生と中学生の2人の母親の岡田尚子さん（39）は「パレードに参加してほしいとPTA仲間や保育園時代のママ友ら60人にメールを送りました。一緒にやろうと発信していくことが大事だと感じました」と話します。



パレードをするママ・パパ・みんなの会@いなぎ・たまの人たち＝6日、東京都稲城市

9/16 市新